

資料を読む (和書)

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤



① 本文内検索

本文内で検索したいワードを検索。検索結果を選択すると、該当ワードを含むページにジャンプします。

② 目次

出版社が目次を設定している場合、該当のページに移動することができます。

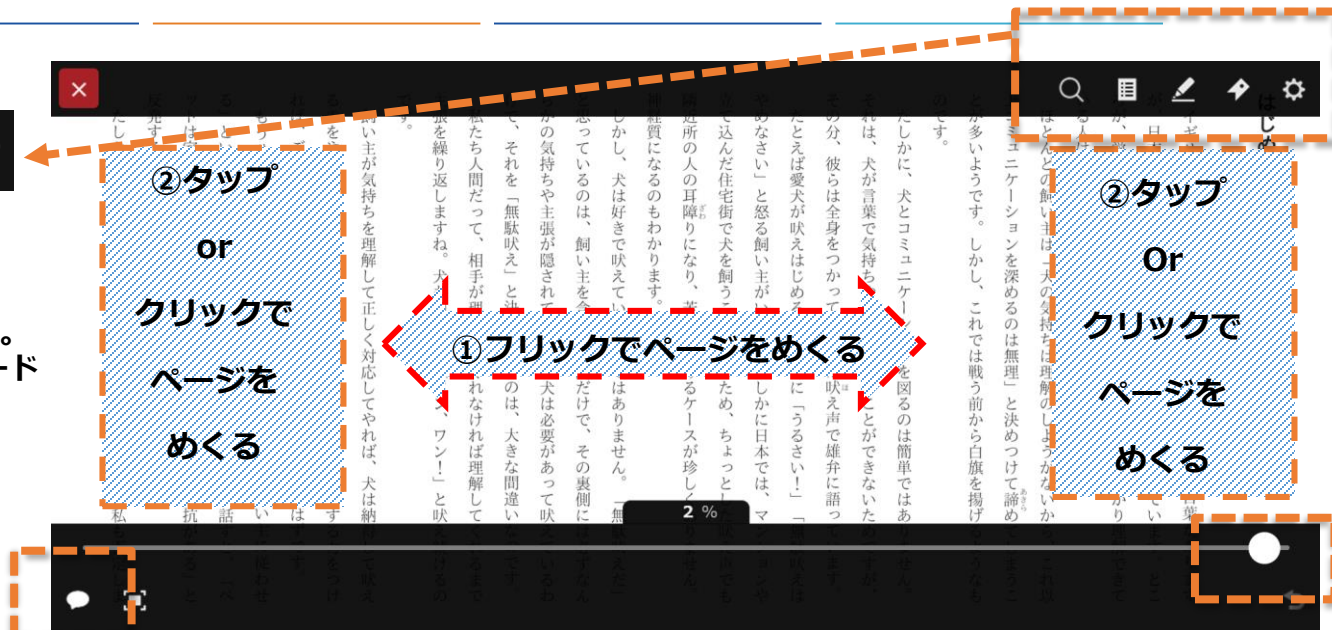
③ マーカー

マーカーを付けた所が記録されます。

④ しおり (付箋機能)

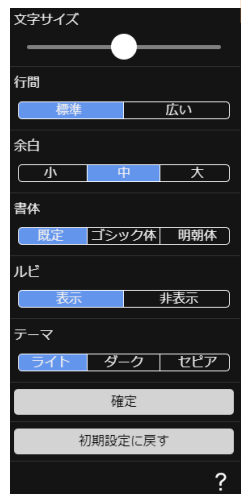
任意のページにしおりを挟むことができます。

⑤ メニュー



音声読み上げ

ページを任意の場所に移動することができます。



- ・ **文字サイズ** : 文字サイズを変更することができます。
- ・ **行間** : 行間を設定できます。
- ・ **余白** : 上下左右の余白を設定することができます。
- ・ **書体** : フォントを選ぶことができます。
- ・ **ルビ** : ルビの非表示を選択できます。
- ・ **テーマ** : 背景色を選ぶことができます。

※画面の右側または左側をクリックするとページをめくることができます。

※書籍によって、文字サイズ等のメニュー画面が表示されない電子書籍がございます。(レシピ・ガイドなど)

メニューの表示方法

はじめに

イギリスには「犬は人生最良のパートナー」という言葉がありますが、日本でも、犬とともに人生を歩もうとする人が増えています。ところが、愛犬家が増えているのに対し、犬の気持ちをしっかりと理解できている人は減っているような気がしてなりません。

ほとんどの飼い主は「犬の気持ちは理解のしようがないから、これ以上コミュニケーションを深めるのは無理」と決めつけて諦めてしまうことが多いようです。しかし、これでは戦う前から白旗を掲げるようなものです。

たしかに、犬とコミュニケーションを図るのは簡単ではありません。

それは、犬が言葉で気持ちや欲求を伝えることができないためですが、

その公
たし
やめ
立て
隣近
神経
しか
と思
らか
けで

画面中央をクリック

全身をつかつて、または吠え声で雄弁に語っています。か吠えはじめると、すぐに「うるさい!」「無駄吠えは怒る飼い主がいます。たしかに日本では、マンションや街で犬を飼うことが多いため、ちよつとした吠え声でも障りになり、苦痛を受けるケースが珍しくありません。吠えて吠えているわけではありません。「無駄吠えだ!」で吠えている飼い主を含めた人間だけで、その裏側には必ずなん王張が隠されています。犬は必要があつて吠えているわけです。無駄吠え」と決めつけるのは、大きな間違いなのです。


私たち人間だって、相手が理解してくれなければ理解してくれるまで主張を繰り返しますね。犬も同じで、「ワン、ワン!」と吠え続けるのです。

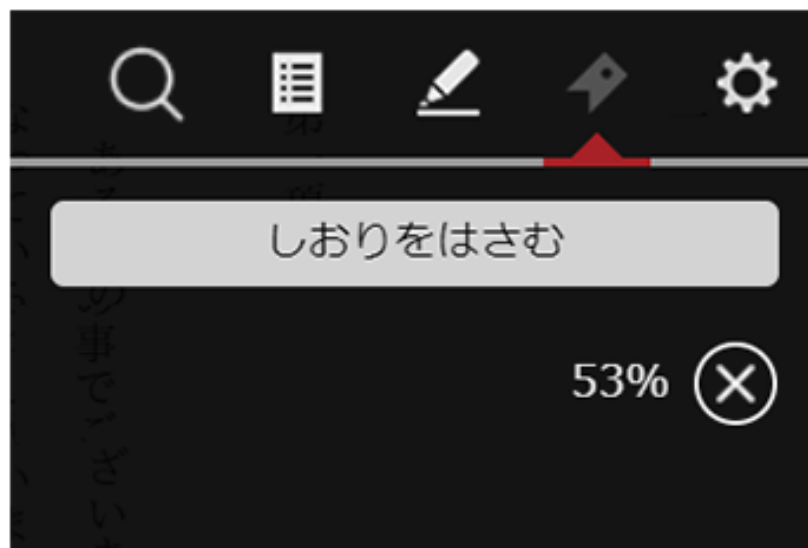
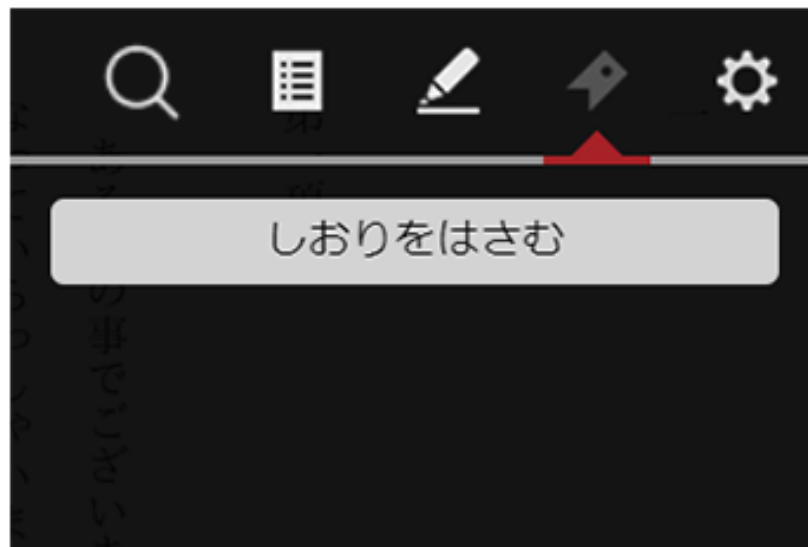
飼い主が気持ちを理解して正しく対応してやれば、犬は納得して吠えるのをやめるでしょう。愛犬が何を求めているのかを理解する力をつければ、ご近所から寄せられる苦情に怯える必要もなくなるはずですよ。

もうひとつ、犬を飼う際に注意してほしいのが、「飼い主に従わせる」という気持ちをしつかり持つことです。こんなことを話すと、「ペットは家族の一員だから、『従わせる』という言葉には抵抗がある」と反発する愛犬家が少なくありません。


たしかに、ペットは家族も同然です。もちろん、それは私も否定しま

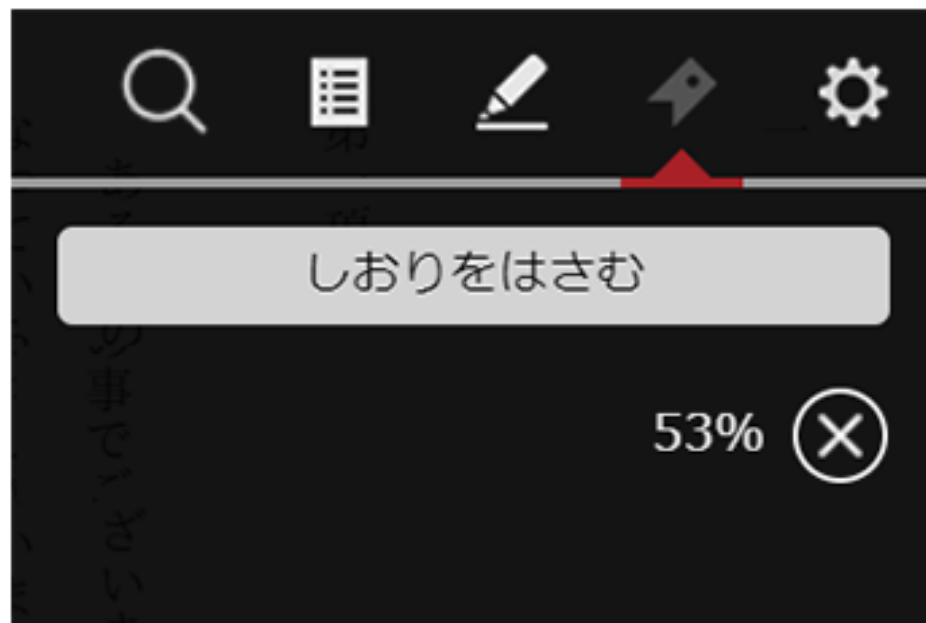
▼[しおり]設定

1. [しおり]を設定したいページでメニューを表示させ、 をクリックします。
2. [しおり]ウィンドウが表示されたら、[しおりをはさむ]をクリックします。
3. [しおり]が保存されます。




▼保存した[しおり]から読む

1. [しおり]を保存した作品を読んでいる途中で、メニューを表示させ、をクリックします。
2. [しおり]ウィンドウが表示されたら、[○%]をクリックすることで、保存した箇所から作品を読み進めることができます。



イギリスには「犬は人生最良のパートナー」という言葉がありますが、日本でも、犬とともに人生を歩もうとする人が増えていきます。ところが、愛犬家が増えているのに対し、犬の気持ちをしっかりと理解できている人は減っているような気がしてなりません。

ほとんどの飼い主は「犬の気持ちは理解のしようがないから、これ以上コミュニケーションを深めるのは無理」と決めつけて諦めてしまうことが多いようです。しかし、これは戦う前から白旗を揚げるようなものです。

たしかに、犬とコミュニケーションを図るのは簡単ではありません。それは、犬が言葉で気持ちや欲求を伝えることができないためですが、その分、彼らは全身をつかって、または吠え声で雄弁に語っています。

たとえば愛犬が吠えはじめると、すぐに「うるさい!」「無駄吠えはやめなさい」と怒る飼い主がいます。たしかに日本では、マンションや立て込んだ住宅街で犬を飼うことが多いため、ちょっとした吠え声でも隣近所の人の耳障りになり、苦情を受けるケースが珍しくありません。神経質になるのもわかります。

しかし、犬は好きで吠えているわけではありません。「無駄吠えだ」と思っているのは、飼い主を含めた人間だけで、その裏側には必ずなんらかの気持ちや主張が隠されています。犬は必要があつて吠えているわけで、それを「無駄吠え」と決めつけるのは、大きな間違いなのです。私たち人間だって、相手が理解してくれなければ理解してくれるまで主張を繰り返しますね。犬も同じで、「ワン、ワン!」と吠え続けるのです。

飼い主が気持ちを理解して正しく対応してやれば、犬は納得して吠えるのをやめるでしょう。愛犬が何を求めているのかを理解する力をつければ、ご近所から寄せられる苦情に怯える必要もなくなるはずです。

もうひとつ、犬を飼う際に注意してほしいのが、「飼い主に従わせる」という気持ちをしっかり持つことです。こんなことを話すと、「ペットは家族の一員だから、『従わせる』という言葉には抵抗がある」と反発する愛犬家が少なくありません。

たしかに、ペットは家族も同然です。もちろん、それは私も否定しま

▼[マーカー]を設定する

1. 作品を閲覧中、任意の文字上で、長押しします。

▼[マーカー]を設定する

2. 文字の背景が青色に表示されたら、任意の箇所までドラッグします。ドラッグを解除するとポップアップメニューが表示されます。

イギリスには「犬は人生最良のパートナー」という言葉があります。日本でも、犬とともに人生を歩もうとする人が増えていきました。ところが、愛犬が増えていのに対し、犬の気持ちをしっかりと理解できている人は減っているような気がしてなりません。

ほとんどの飼い主は「犬の気持ちは理解のしようがないから、これ以上コミュニケーションを深めるのは無理」と決めつけて諦めてしまうことが多いようです。しかし、ここでは戦う前から白旗を掲げるようなものではありません。



たしかに、**犬とコミュニケーション**を図るのは簡単ではありません。それは、犬が言葉で気持ちや欲求を伝えることができないためですが、その分、彼らは全身をつかってたとえば愛犬が吠えはじめるたびに「うるさい」「無駄吠えはやめなさい」と怒る飼い主がい立って込んだ住宅街で犬を飼うことが多いため、ちょっとした吠え声でも隣近所の人の耳障りになり、苦情を受けるケースが珍しくありません。神経質になるのもわかります。

Google検索 マーク

しかし、犬は好きで吠えているわけではありません。「無駄吠えだ」と思っているのは、飼い主を含めた人間だけで、その裏側には必ずなんらかの気持ちや主張が隠されています。犬が必要があって吠えているわけで、それを「無駄吠え」と決めつけるのは、大きな間違いなのです。私たち人間だって、相手が理解してくれなければ理解してくれるまで主張を繰り返しますね。犬も同じで、「ワン、ワン！」と吠え続けるのです。

飼い主が気持ちを理解して正しく対応してやれば、犬は納得して吠えるのをやめるでしょう。愛犬が何を求めているのかを理解する力をつければ、ご近所から寄せられる苦情に怯える必要もなくなるはずですよ。

もうひとつ、犬を飼う際に注意してほしいのが、「飼い主に従わせる」という気持ちをしつかり持つことです。こんなことを話すと、「ペットは家族の一員だから、『従わせる』という言葉には抵抗がある」と反発する愛犬家が少なくありません。

たしかに、ペットは家族も同然です。もちろん、それは私も否定しま

▼[マーカー]を設定する

3. ポップアップメニューの[マーク]をクリックすると、マーカー登録の際にマークカラーを選択できます。

イギリスには「犬は人生最良のパートナー」という言葉があります。が、日本でも、犬とともに人生を歩もうとする人が増えています。ところが、愛犬家が増えているのに対し、犬の気持ちをしっかりと理解できている人は減っているような気がしてなりません。

ほとんどの飼い主は「犬の気持ちは理解のしようがないから、これ以上コミュニケーションを深めるのは無理」と決めつけて諦めてしまうことが多いようです。しかし、これでは戦う前から白旗を掲げるようなものです。

たしかに、**犬とコミュニケーション**を図るのは簡単ではありません。それは、犬が言葉で気持ちや欲求を伝えているのと同じように、犬もその分、彼らは全身をつかって、またたたとえば愛犬が吠えはじめると、すやめなさい」と怒る飼い主がいます。立て込んだ住宅街で犬を飼うことが多いため、ちよつとした吠え声でも隣近所の人の耳障りになり、苦情を受けるケースが珍しくありません。神経質になるのもわかります。

しかし、犬は好きで吠えているわけではありません。「無駄吠えだ」と思っているのは、飼い主を含めた人間だけで、その裏側には必ずなんらかの気持ちや主張が隠されています。犬は必要があって吠えているわけ、それを「無駄吠え」と決めつけるのは、大きな間違いなのです。

私たち人間だって、相手が理解してくれなければ理解してくれるまで主張を繰り返しますね。犬も同じで、「ワン、ワン！」と吠え続けるのです。

飼い主が気持ちを理解して正しく対応してやれば、犬は納得して吠えるのをやめるでしょう。愛犬が何を求めているのかを理解する力をつければ、ご近所から寄せられる苦情に怯える必要もなくなるはずですよ。

もうひとつ、犬を飼う際に注意してほしいのが、「飼い主に従わせる」という気持ちをしっかりと持つことです。こんなことを話すと、「ペットは家族の一員だから、『従わせる』という言葉には抵抗がある」と反発する愛犬家が少なくありません。

たしかに、ペットは家族も同然です。もちろん、それは私も否定しま

Google検索 マーク



ことができないためですが、雄弁に語っています。『ささい!』「無駄吠えは日本では、マンションや

イギリスには「犬は人生最良のパートナー」という言葉があります。が、日本でも、犬とともに人生を歩もうとする人が増えていきます。ところが、愛犬家が増えているのに対し、犬の気持ちをしっかりと理解できている人は減っているような気がしてなりません。

ほとんどの飼い主は「犬の気持ちは理解のしようがないから、これ以上コミュニケーションを深めるのは無理」と決めつけて諦めてしまうことが多いようです。しかし、これでは戦う前から白旗を掲げるようなものです。

たしかに、**犬とコミュニケーション**を図るのは簡単ではありません。それは、犬が言葉で気持ちや欲求を伝えることができないためですが、その分、彼らは全身をつかって、または吠え声で雄弁に語っています。たとえば愛犬が吠えはじめると、すぐに「うるさい!」「無駄吠えはやめなさい」と怒る飼い主がいます。たしかに日本では、マンションや立て込んだ住宅街で犬を飼うことが多いため、ちょっとした吠え声でも隣近所の人の耳障りになり、苦情を受けるケースが珍しくありません。神経質になるのもわかります。

しかし、犬は好きで吠えているわけではありません。「無駄吠えだ!」と思っているのは、飼い主を含めた人間だけで、その裏側には必ずなんらかの気持ちや主張が隠されています。犬が必要があって吠えているわけで、それを「無駄吠え」と決めつけるのは、大きな間違いなのです。

私たち人間だって、相手が理解してくれなければ理解してくれるまで主張を繰り返しますね。犬も同じで、「ワン、ワン!」と吠え続けるのです。

飼い主が気持ちを理解して正しく対応してやれば、犬は納得して吠えるのをやめるでしょう。愛犬が何を求めているのかを理解する力をつければ、ご近所から寄せられる苦情に怯える必要もなくなるはずですよ。

もうひとつ、犬を飼う際に注意してほしいのが、「飼い主に従わせる」という気持ちをしっかりと持つことです。こんなことを話すと、「ペットは家族の一員だから、『従わせる』という言葉には抵抗がある」と反発する愛犬家が少なくありません。

たしかに、ペットは家族も同然です。もちろん、それは私も否定しま

▼[マーカー]を設定する

4. 任意の色をクリックすると選択文字の背景に選択した色が表示され、[マーカー]が設定されます。

▼[マーカー]を設定する

5. マーカー部分をクリックし、ポップアップメニューの[色変更]を選択すると、マーカー色の変更ができます。
6. マーカー部分をクリックし、ポップアップメニューの[削除]を選択すると、マーカーの削除ができます。

はじめに

イギリスには「犬は人生最良のパートナー」という言葉がありますが、日本でも、犬とともに人生を歩もうとする人が増えていきます。ところが、愛犬家が増えているのに対し、犬の気持ちをしっかりと理解できていない人は減っているような気がしてなりません。

ほとんどの飼い主は「犬の気持ちは理解のしようがないから、これ以上コミュニケーションを深めるのは無理」と決めつけて諦めてしまうことが多いようです。しかし、これでは戦う前から白旗を掲げるようなものです。

たしかに、**犬とコミュニケーション**を図るのは簡単ではありません。それは、犬が言葉で気持ちを伝えることができないためですが、その分、彼らは全身をつかって、または吠え声で雄弁に語っています。

たとえば愛犬が吠えはやく、すぐに「うるさい!」「無駄吠えはやめなさい」と怒る飼い主は、求を伝えることができないためですが、たしかに日本では、マンションや立て込んだ住宅街で犬を飼うことが多いため、ちょっとした吠え声でも隣近所の人の耳障りになり、苦情を受けるケースが珍しくありません。神経質になるのもわかります。

しかし、犬は好きで吠えているわけではありません。「無駄吠えだ!」と思っているのは、飼い主を含めた人間だけで、その裏側には必ずなんらかの気持ちや主張が隠されています。犬は必要があって吠えているわけで、それを「無駄吠え」と決めつけるのは、大きな間違いなのです。私たちが人間だって、相手が理解してくれなければ理解してくれるまで主張を繰り返しますね。犬も同じで、「ワン、ワン!」と吠え続けるのです。


飼い主が気持ちを理解して正しく対応してやれば、犬は納得して吠えるのをやめるでしょう。愛犬が何を求めているのかを理解する力をつければ、ご近所から寄せられる苦情に怯える必要もなくなるはずです。

もうひとつ、犬を飼う際に注意してほしいのが、「飼い主に従わせる」という気持ちをしっかりと持つことです。こんなことを話すと、「ペットは家族の一員だから、『従わせる』という言葉には抵抗がある」と反発する愛犬家が少なくありません。

たしかに、ペットは家族も同然です。もちろん、それは私も否定しま

色変更 ×W 削除

▼設定した[マーカー]でジャンプする

1. メニューを表示させ、 をクリックします。

2. [マーカー]ウィンドウが表示されたら、マーカーとして設定した文字部分をクリックすることで、マークした箇所にジャンプすることができます。



▼設定した[マーカー]にメモを追加する

1. マーカー部分をクリックします。

イギリスには「犬は人生最良のパートナー」という言葉がありますが、日本でも、犬とともに人生を歩もうとする人が増えています。ところが、愛犬が増えているのに対し、犬の気持ちをしっかりと理解できている人は減っているような気がしてなりません。

ほとんどの飼い主は「犬の気持ちは理解のしようがないから、これ以上コミュニケーションを深めるのは無理」と決めつけて諦めてしまうことが多いようです。しかし、これでは戦う前から白旗を揚げるようなものです。

たしかに、**犬とコミュニケーション**を図るのは簡単ではありません。それは、犬が言葉で気持ちその分、彼らは全身をつかたたとえば愛犬が吠えはたやめなさい」と怒る飼います。たしかに日本では、マンションや立て込んだ住宅街で犬を飼うことが多いため、ちょっとした吠え声でも隣近所の人の耳障りになり、苦情を受けるケースが珍しくありません。神経質になるのもわかります。

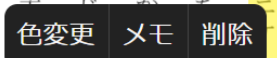
しかし、犬は好きで吠えているわけではありません。「無駄吠えだ」と思っているのは、飼い主を含めた人間だけで、その裏側には必ずなんらかの気持ちや主張が隠されています。犬は必要があつて吠えているわけで、それを「無駄吠え」と決めつけるのは、大きな間違いなのです。

私たち人間だって、相手が理解してくれなければ理解してくれるまで主張を繰り返しますね。犬も同じで、「ワン、ワン！」と吠え続けるのです。

飼い主が気持ちを理解して正しく対応してやれば、犬は納得して吠えるのをやめるでしょう。愛犬が何を求めているのかを理解する力をつければ、ご近所から寄せられる苦情に怯える必要もなくなるはずですよ。

もうひとつ、犬を飼う際に注意してほしいのが、「飼い主に従わせる」という気持ちをしっかりと持つことです。こんなことを話すと、「ペットは家族の一員だから、『従わせる』という言葉には抵抗がある」と反発する愛犬家が少なくありません。

たしかに、ペットは家族も同然です。もちろん、それは私も否定しま



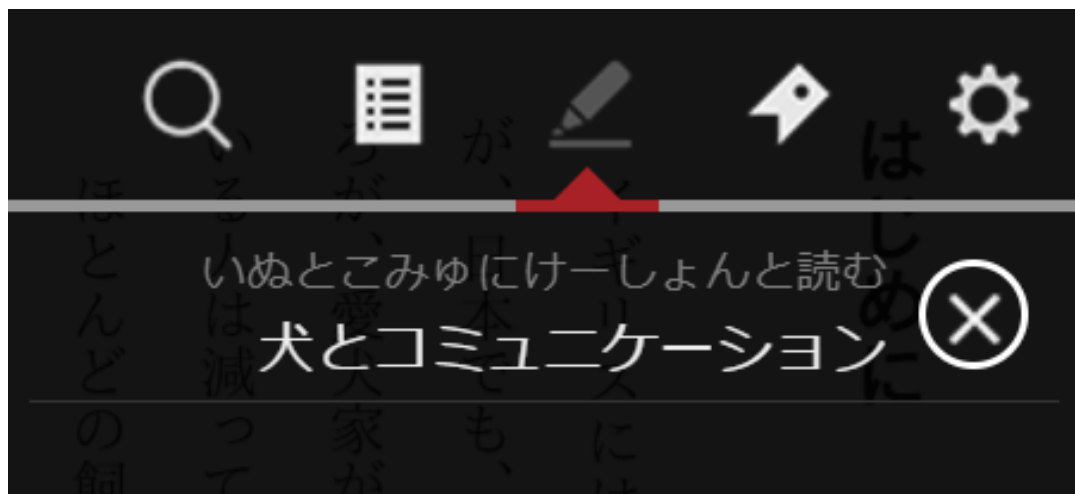
▼設定した[マーカー]にメモを追加する

2. ポップアップメニューの[メモ]を選択すると、[メモ]ウィンドウが表示され、140文字までメモを追加できます。



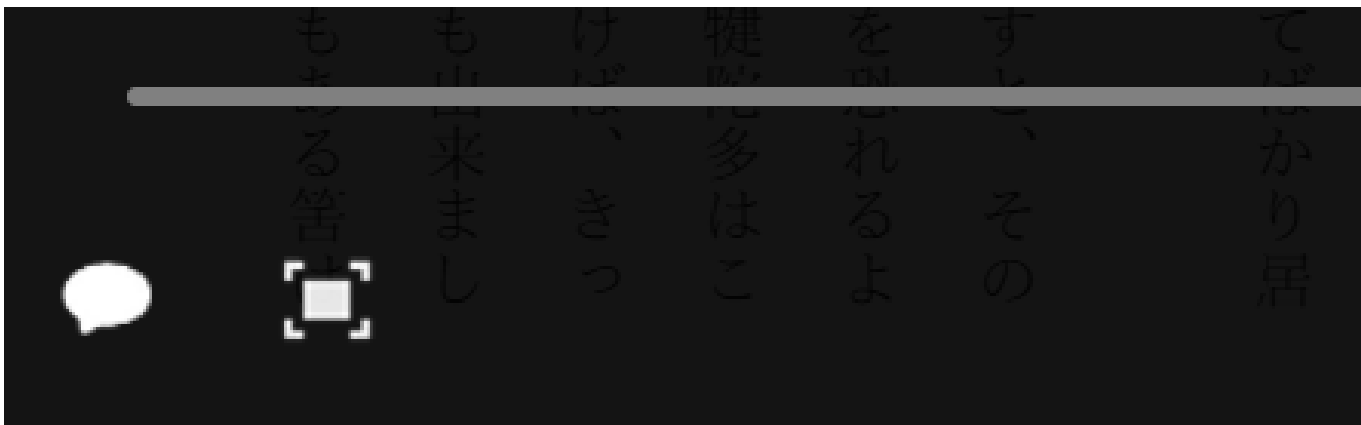
▼設定した[マーカー]にメモを追加する

3. 保存したメモは[マーカー]ウィンドウで確認ができます。マークリストからメモを追加した文字を選択すると、再び[メモ]ウィンドウを表示することができます。



▼[読み上げ]を実行する

1. メニューを表示させ、画面左下の  をクリックします。



イギリスには「犬は人生最良のパートナー」という言葉があります

が、日本でも、犬とともに人生を歩もうとする人が増えていきます。ところが、愛犬が増えていくのに対し、犬の気持ちをしっかりと理解できている人は減っているような気がしてなりません。

ほとんどの飼い主は「犬の気持ちは理解のしようがないから、これ以上コミュニケーションを深めるのは無理」と決めつけて諦めてしまうことが多いようです。しかし、これでは戦う前から白旗を掲げるようなものです。

たしかに、犬とコミュニケーションを図るのは簡単ではありません。それは、犬が言葉で気持ちや欲求を伝えることができないためですが、その分、彼らは全身をつかって、または吠え声で雄弁に語っています。

たとえば愛犬が吠えはじめると、すぐに「うるさい!」「無駄吠えはやめなさい」と怒る飼い主がいます。たしかに日本では、マンションや立て込んだ住宅街で犬を飼うことが多いため、ちょっとした吠え声でも隣近所の人の耳障りになり、苦情を受けるケースが珍しくありません。神経質になるのもわかります。

しかし、犬は好きで吠えているわけではありません。「無駄吠えだ!」と思っているのは、飼い主を含めた人間だけで、その裏側には必ずなんらかの気持ちや主張が隠されています。犬が必要があつて吠えているわけで、それを「無駄吠え」と決めつけるのは、大きな間違いなのです。

私たち人間だって、相手が理解してくれなければ理解してくれるまで主張を繰り返しますね。犬も同じで、「ワン、ワン!」と吠え続けるのです。

飼い主が気持ちを理解して正しく対応してやれば、犬は納得して吠えるのをやめるでしょう。愛犬が何を求めているのかを理解する力をつければ、ご近所から寄せられる苦情に怯える必要もなくなるはずですよ。

もうひとつ、犬を飼う際に注意してほしいのが、「飼い主に従わせる」という気持ちをしつかり持つことです。こんなことを話すと、「ペットは家族の一員だから、『従わせる』という言葉には抵抗がある」「反発する愛犬家が少なくありません。

たしかに、ペットは家族も同然です。もちろん、それは私も否定しま

▼[読み上げ]を実行する

2. 読み上げツールバーが表示され、本文の読み上げが開始されます。読み上げの実行中は、本文がハイライトで強調表示されます。

普通

▼[読み上げ]を実行する

3. 読み上げを一時停止する場合は、読み上げツールバーの「一時停止ボタン」をクリックします。



4. 一時停止した箇所から再開する場合は、読み上げツールバーの「再生ボタン」をクリックします。



5. 読み上げ速度を変更する場合は、プルダウンメニューで[遅い]、[普通]、[速い]から選択します。

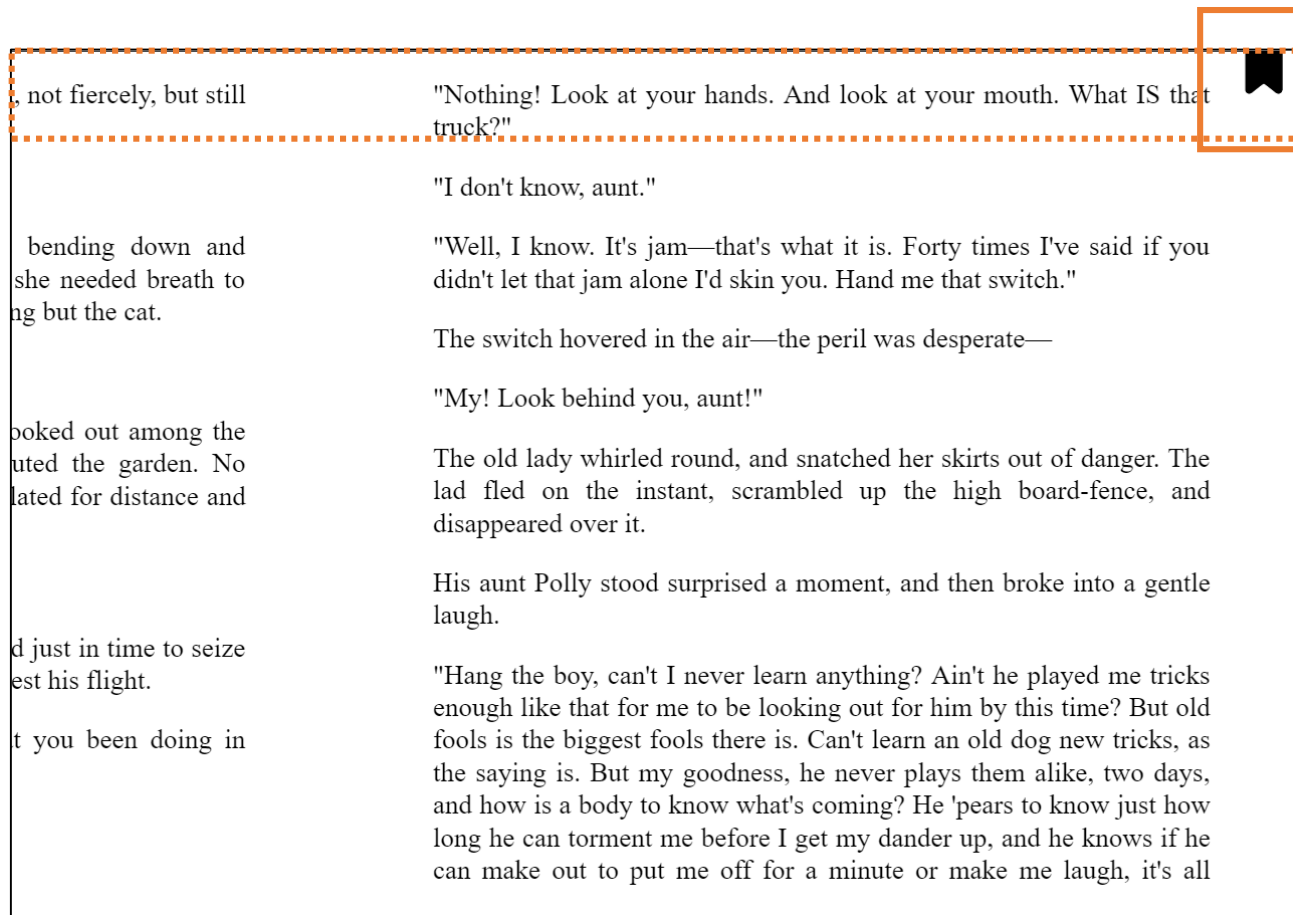


6. 読み上げを終了する場合は、「×ボタン」をクリックします。



資料を読む（洋書）

① しおり 開いているページにしおりを挟むことができます。



電子書籍の上部をクリックするとしおりの印が出ます

資料を読む（洋書）

- ② ページ中央～下部をクリックすると、上下にバーが出てきます。次ページではまず、上部のメニューについて説明します。

The screenshot shows a digital book page with a top navigation bar containing icons for a menu, font size, search, and bookmarks. The main text area displays a passage from the book. Below the text, there is a circular book cover for 'THE ADVENTURES OF TOM SAWYER' and a progress indicator showing '13-14ページ / 382ページ'. At the bottom, there is a chapter title 'Chapter I' with a '目次' (Table of Contents) link and a page number '13頁'. A progress bar at the very bottom shows the current page position relative to the total pages.

ここでしおりを挟んだり、外したりすることもできます。

資料を読む（洋書）

③ 上部メニューバー ※書籍によって出てくるマークが異なる場合があります



画面に表示するページ数を、1ページか2ページかを切り替えます。



文字の大きさやフォントの変更、白黒反転などを行えます。



資料の中の単語を検索することができます。



①で挟んだしおり、⑥でつけたハイライトの場所を確認できます。

※書籍によっては下記マークも表示されます

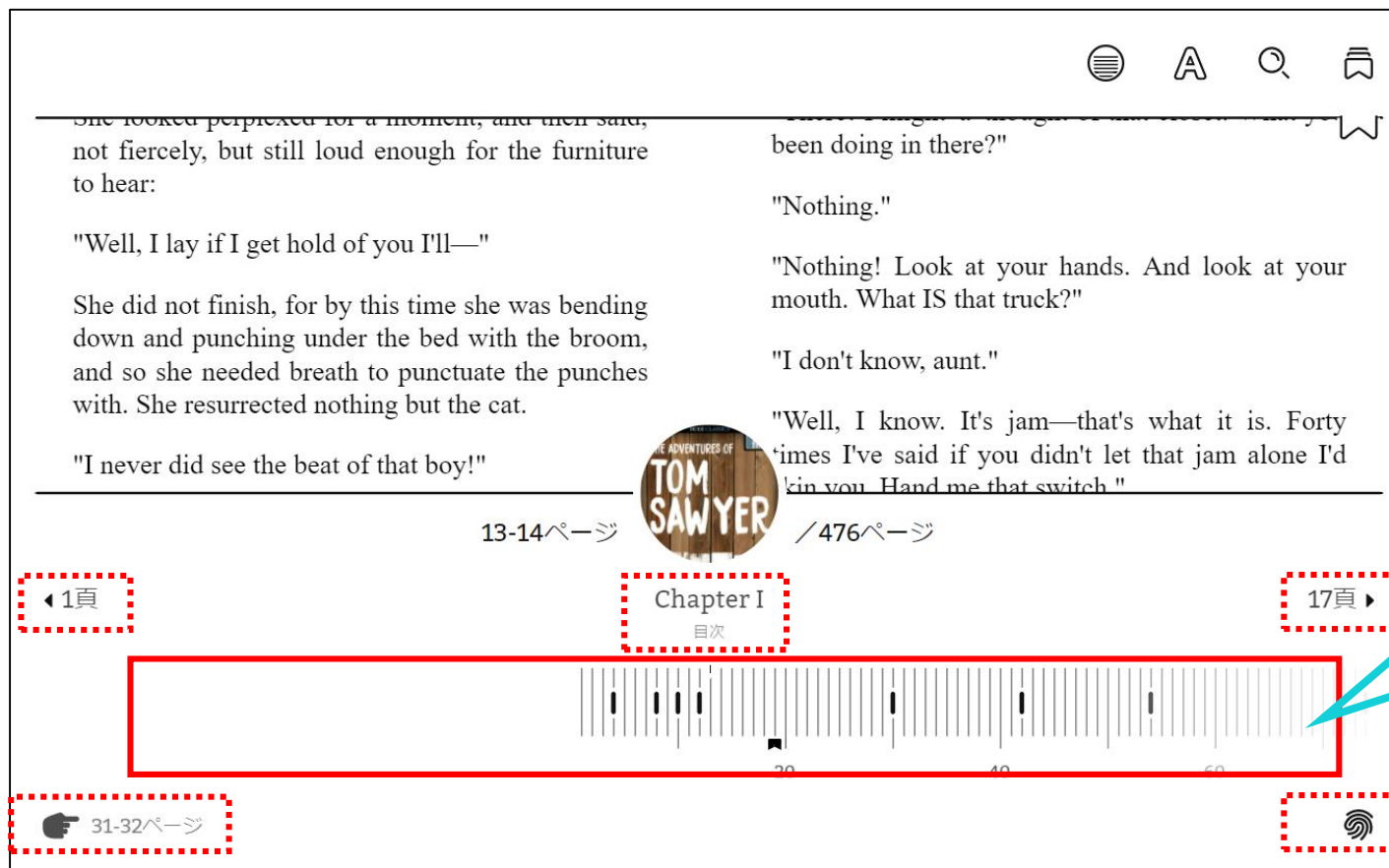


クリックすると表示が大きくなります。
「+」「-」をクリックして大きさの調整ができます。



資料を読む（洋書）

- ④ 下部のバーは、クリックしながら左右に動かすことで、任意のページに移動することができます。
次ページでそれ以外のメニューについて説明します。



しおりの位置や
ハイライトの位置も
表示されます。

資料を読む（洋書）

⑤ 下部メニューバー ※書籍によって出てくるマークが異なる場合があります

◀ 1頁 19頁 ▶ 前後の章の開始位置に移動します

Chapter I
目次

クリックすると、書籍の目次が一覧で表示されます。



クリックすると、直前に移動してきたページに戻ります



ページの移動履歴です。
クリックするとその位置に移動します。



最近見た場所 ▼ クリア

● 今ここにいます :
31-32ページ 27 秒前
Chapter II

○ 1 個の停止位置

○ ここから移動しました :
13-14ページ 8 分前
Chapter I

○ 以前の場所

資料を読む（洋書）

⑥ 検索、ハイライトについて

文字列を長押しすると、青く選択された状況になり、下部にメニューが出てきます。

THROUGH them for so small a thing as a boy; they were her state pair, the pride of her heart, and were built for "style," not service—she could have seen through a pair of stove-lids just as well. She looked **perplexed** for a moment, and then said, not fiercely, but still loud enough for the furniture to hear:

"Well, I lay if I get hold of you I'll—"

She did not finish, for by this time she was bending down and punching under the bed with the broom, and so she needed breath to punctuate the punches with. She resurrected **nothing** but the cat.

"Y-o-u-u TOM!"

There was a slight noise behind her and she turned just in time to seize a small boy by the slack of his roundabout and arrest his flight.

"There! I might 'a' thought of that closet. What you been doing in there?"

"Nothing."

"Nothing! Look at your hands. And look at your mouth. What IS that truck?"

"I don't know, aunt."

The screenshot shows a long-press menu overlaid on the word "nothing" in the text. The menu has three options: "定義" (Definition) with a dictionary icon, "ハイライト" (Highlight) with a highlighter icon and three colored circles (yellow, pink, green), and "本の中で検索する" (Search in this book) with a magnifying glass icon. The menu is enclosed in a dashed orange border.

定義

単語を英英辞典で調べたり、別の検索ブラウザで検索できます

ハイライト



選択した文字列を、3色からハイライトできます

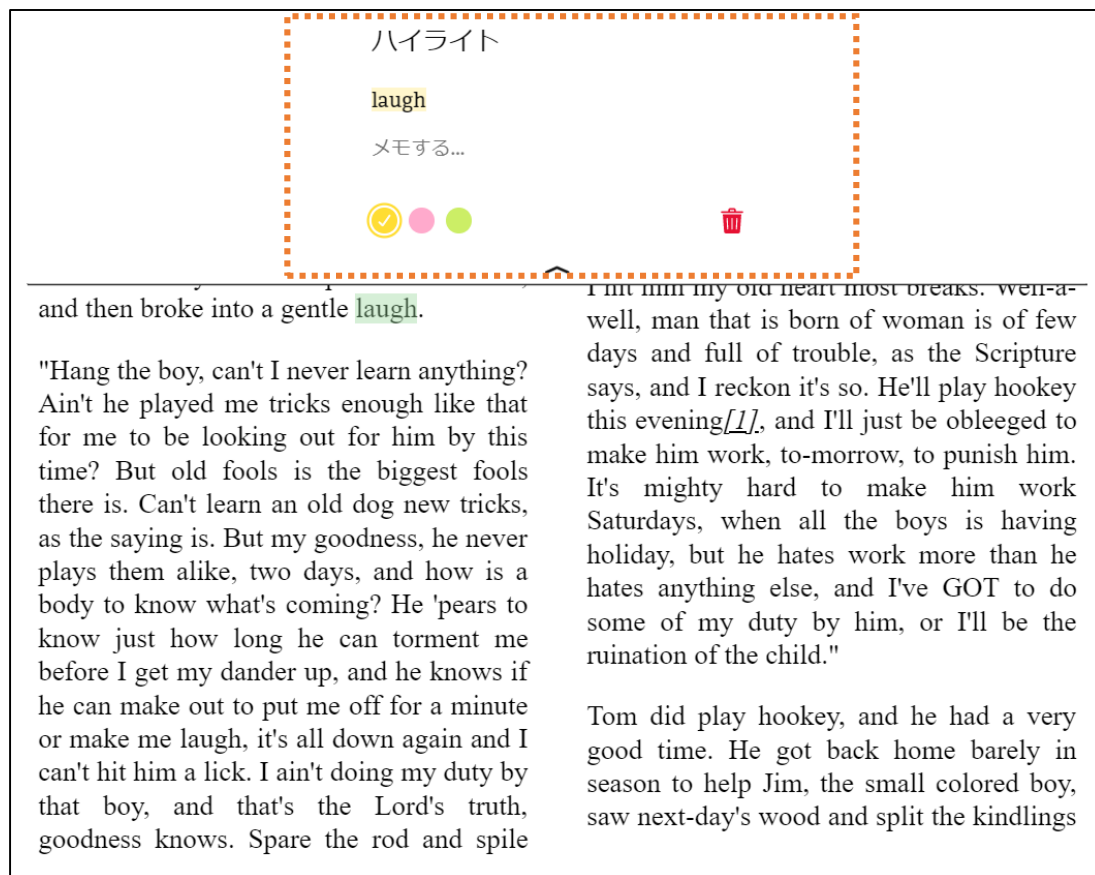
本の中で検索する

同じ単語を同一書籍内で検索できます

資料を読む（洋書）

⑦ ハイライトのメモについて

ハイライトした文字列を再度長押しすると、上部にメニューが出てきます。



メモする...

ハイライトした箇所にメモを残すことができます。



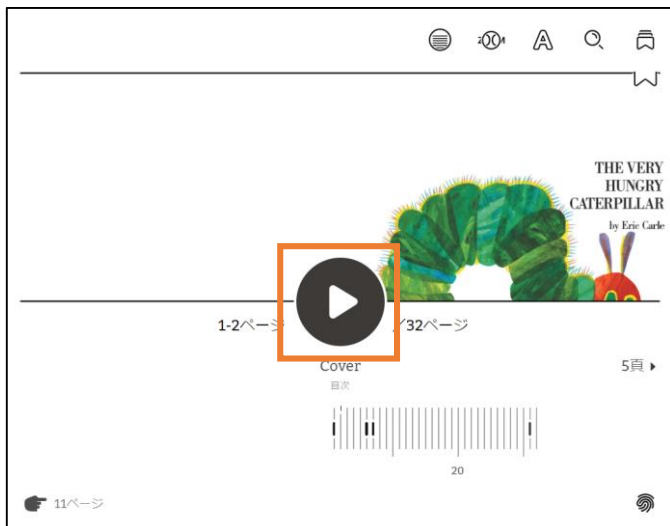
ハイライトの色を変更できます




ハイライトを削除します


資料を読む（音声付電子書籍）

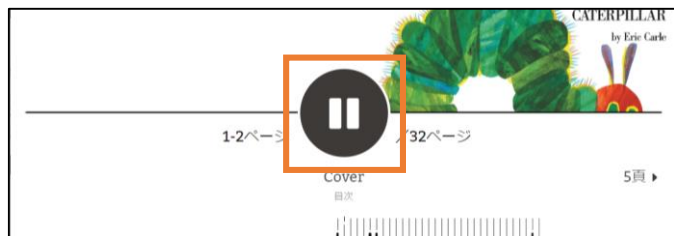
Read-Along(リード・アロング)は、文章を読みながらナレーションを聴くことができる電子書籍です。



※借りる～読み始めるまでの動作は、ほかの電子書籍と同じです。

① ページ下部の**再生ボタン**  を押すと、ナレーションが始まります。
※パソコンを使用している場合は、キーボードの「**P（大文字）**」を押すことでも開始できます。

② ページ下部の**停止ボタン**  を押すと、ナレーションが止まります。
(ナレーションが流れていない時は「再生ボタン」になっていますが、再生中は「停止ボタン」になります)
※キーボードの「**P（大文字）**」を押しても停止できます。



ページは音声に従って自動的にめくられますが、パソコンを使用している場合は、キーボードの「→」「←」でもページを操作できます。
また、画面下部のバーをスライドさせることでも移動が可能です。

資料を読む（音声付電子書籍）

音声に合わせて文字がハイライトされます。

